

# 兄も立った聖地で躍動

## 沖縄から進学 光星・仲里(3年)

### 「夏にまた戻ってくる」



八戸学院光星の中堅手としてセンバツで躍動した仲里志保  
27日、兵庫県西宮市の阪神甲子園球場

兵庫県西宮市の甲子園球場で行われている第98回選抜高校野球大会に出場した八戸学院光星の中堅手仲里志保(3年)は、同校が2024年のセンバツに臨んだ際にマンパーだった蓮さん(19)の弟。兄の背中を追って兵庫県から同校へ進み、同じ舞台に立った。27日の準々決勝では外野陣へ細かく守備位置を指示するなど中心になって支えたが、勝利には惜しくも届かず。「やり残したことがいっぱいあったので、夏に向けて課題をつぶし、また戻ってきてみたい」と誓った。(千葉達也)

里は家族とともに甲子園のスタンドにいた。兄に出場は訪れなかったが、開幕試合の東第一(東京)戦、延長十一回タイブレークの微塵を制した一戦に「鳥肌が立った」。自分もこの舞台に立ちたいとの思いを強くした。同時に「兄と同じ学校に通みたい」と伝えた時には、体小さいことを理由に「お前な」と笑み。「夏に向けて悔いのないように練習し、チームに貢献してほしい」と願っていた。



スタンドで息子のプレーを見守る仲里志保さん(右)と沙さん=27日、甲子園

兄は現在、東京農業大北海道オホーツク硬式野球部に所属。仲里はキャプテンのため、甲子園での弟のプレーはテレビで見守った。準々決勝前には「思いっきり、自分を持ってプレーしろ」とLINEを送った。結果には結びつかなかったが、助言を基に躍動した仲里。

## ナインに惜しみない拍手



逆転を信じてエールを送る生徒ら  
=27日、八戸学院光星高

### 光星留守部隊「夏は優勝旗を」

春休み中の八戸学院光星高には、準々決勝を戦ったため集まった生徒約人が、裏面に声援を送った。ベスト4進出はならなかったが、激戦を戦った選手に惜しみない拍手を送った。応援には校内で活動していたソフトテニス部、弓道部、アイスホッケー部のほか、普通科特別進学コースの1、2年生も参加した。生徒会長の兼田萌生さん(17)は「最後まで粘り強く諦めず頑張る姿に感動した。この試合をばねに、夏は青森県勢初優勝旗を持ち帰ってほしい」と健闘を

たたえた。27日は八戸市中心街のマチニワでパブリックビューイングも行われ、市民が熱い声援を届けた。(向原敬明)